

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276100316		
法人名	特定非営利活動法人 しおさい		
事業所名	グループホームしおさいの家		
所在地	御前崎市池新田7449-1		
自己評価作成日	平成25年10月13日	評価結果市町村受理日	平成26年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigvoCd=2276100316-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigvoCd=2276100316-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階		
訪問調査日	平成25年10月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日本の文化として継承されている伝統行事(正月行事、節分、お月見、しめ縄作り、餅つきなど)を取り込んで、入所者の秘めている力を発揮する機会を作り日常では見られない所作を見逃さないようにし自信を取り戻し、生き生き暮らせるよう支援している。  
地域の行事(文化祭、産業祭、案山子作り、砂丘保全林祭り等)に参加したり、市内の公園等に出かけ、大勢の子供たちと交流を深め、地域との関係を保持している。  
夜間外出希望者には、蛍、イルミネーション見物など楽しんでいる。  
日常的には、まず生活リハビリの取り組み、食事作り、片付け、洗濯、買い物などスタッフと一緒に行動し自立を促している。また器具を活用してのリハビリも継続的に実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

遠州灘の波音をBGMIに玄関に入ると、本年の収穫を祈る案山子の出迎えがあり、懐かしさと同時に温かさが感じられます。「秘めている力を最大限発揮し、生き生きと暮らす」という理念の言葉通り、御社造りや注連縄、正月飾り作り、昔ながらの大豆の選別等、地域色豊かな暮らしが利用者の手によって紡がれています。管理者は、利用者個人が持つ能力を发掘し、その力を発揮することで社会参加できると考えており、古切手を切り取る作業も続けてきましたが、これらは一人ひとりの自負心に繋がっていると感じています。また、日常的な外出支援に力を入れ、たとえ近くでも、少しの時間でも地域や自然に触れる機会をつくっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	意識を高揚するための手段としてスタッフが担当している利用者について理念をどのよう に生かしているか記入している	年に一度、個々の利用者について理念が実践 できていたか振り返りの機会をもっています。 担当職員が一つひとつの項目に沿って 記録していることを確認しました。これにより 次年度の目標にもつながっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	近隣へ良く外出して話を交わしている。道路 清掃にも参加して交流を図る中で、互いに 理解を深めて頂いている	隣近所とは季節の野菜や手作り菓子のやり とりがあり、子どもたちも親戚の家に訪れるよ うに遊びに来てくれて、夏にはそうめん流しや 花火を一緒に楽しみました。教職課程などの 実習受け入れもあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて 活かしている	認知症キャラバンメイトとして老人会、学校、 子供クラブなどにも言って伝えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活か している	2か月ごとに運営推進会議を開催し報告して いる。また防災上の問題もよく話題になり協 力を依頼している	市の高齢化支援課、民生委員 家族代表、 地区班長などの出席があり、防災面での話 題が多く避難場所についての検討も重ねら れています。また、注連縄作り等に使う稲藁 の予約にも会議の場が活用されています。	利用者家族にも運営推進会議の案内 や議事録を通知されることを期待しま す。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所 の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝 えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進者会議に報告するとともに市担当 部署を訪問し指導を仰いでいる。	書類は手渡しで行われ、週に1～2度言葉 を交わす機会があります。運営推進会議には 毎回行政職員の参加があり、防災関係にお いては市防災課に参加を願って助言を仰 いでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サー ビス指定基準及び指定地域密着型介護予防サー ビス指定基準における禁止の対象となる具体的 な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて 身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0(ゼロ)宣言実施。	外部研修を通して何が身体拘束にあたるか を学び、内部研修を周知の機会としていま す。信頼関係の構築と共に細やかな配慮が 成され、おのずと転倒予防にもつながるもの と考えています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につ いて学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内 での虐待が見過ごされることがないように注意を払 い、防止に努めている	虐待はない。 言語的暴力もないよう留意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度に該当している利用者はいなくなったが、研修等に参加して知識を深めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて説明し納得していただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族代表を委員にして意見を聴いている。 意見箱も設置している	意見箱への意見はありませんが、日頃の面会を直接要望や意見を聞き取る機会と捉えて、努力しています。家族アンケートにも、「少人数なので柔軟に対応してもらえると概ね好意的な意見が挙がっています。	ケアが優れていることなどから長期利用者が多くいます。家族アンケート結果を今一度吟味され、家族の状況や気持ちが経年変化を生じていないか検討することを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常生活の中で言い易い職場づくりに配慮している。毎日セミナー時の意見や日頃の職員の意見を出す時間を設けている	休憩の取り方は職員間でシフト調整を行い、その都度検討されていることに連携の良さを感じました。個人面談の機会はありませんが、気になる時は随時管理者から声をかけています。	本年度は職員個々の技量向上を目指し、機会を捉えて全職員で課題に取り組み、意識向上につながった例もあったとのことですので、引き続き経営側のバックアップを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年は労働基準監督署の指導を直接仰ぐことができた		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や市、また市包括支援センターの研修に参加したり、近隣の施設の方とも交流したり、研修に参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流会や研修会参加し、相互理解による向上に努めている。メールも交換している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個々に担当をつけておみや希望をきくよう努めている。家族からも聞くようにしている。また生活のひとこまーコマーコマからも思いや考え方を推察するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	認知症のゆえに本人が思いを十分に伝えられない事も良くあり、家族からは十分な情報が頂けるようよう聞くとともに心配や不安のないようにしている。入所当初の様子を家族に電話している。また毎月1回全員に手紙を書いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望を聞き入れ、早期に対応し安心を感じて戴き、職員が情報を共有し、職員間で統一した対応ができてつようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事を一緒に作ったり年中行事の由来を教わったりしながら、支えあっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には事細かに連絡を取り、本人をささえるのに協力して頂いている。誕生日や米寿のいわいなそ家族の思いを寄せていただいている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と墓参に出かけたり、親戚へ出掛けたり出来るように心掛けている。友人等も自由に来訪している。	図書館や市民会館に近く、読書好きなら図書館通いを、歌が好きな人とはコンサートへといった地域資源を活かした支援があります。書くことが難しくなった人に日記を継続する取組支援もあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しそうなときは仲介して孤立しないようにし、利用者同士が小さなことでも支えあえるよう支援している(ボタンをはめたり、靴下をはかせてくれたり車椅子を押してくれたりと等々)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了してからも来訪してくれたり、電話をくれる。当方からも時々電話をして本人の思い出話をしている家族もいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に一人一人の思いや希望をくみ取り把握して共有している。(センター方式活用)	入居時にはセンター方式での情報収集ですが、多様なアプローチで新たな発見があり、言葉での表出が困難な人には表情や反応をみて捉えるようにしています。担当制をしくことによってより細かな気づきが得られ、安心感から想いの抽出に役立つと考えています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来るだけ今までの生活が継続できるように過去の経過をくみ取って把握するようにしている。担当者を一人一人につけてほかのスタッフにも協力してもらっている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	引き継ぎを十分行って一人一人について総合的な把握が出来るようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人一人の担当者が毎月モニタリングを行い計画作成担当者(ケアマネジャー)また本人家族等と相談して介護計画書(ケアプラン)を作成している	日頃のケアでの気づきはケース記録やケアチェック表に記し、モニタリングにてプランに反映されています。プランは、職員が毎日記録を書き込むファイルに整理され、変更があればマーキングされて周知徹底が図られ、現状に即したプランとなっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別ケア記録やケアプランの実践記録を残し、他方で毎日2回の引き継ぎをし、なおケース引き継ぎ録を閲覧して共有し話し合いでケア計画を立案している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズが多様化しており、医療的な希望もまし、看護師の勤務を増やしたり看護師同伴の受診にも柔軟に対応している。利用者や家族の体調不良に伴う緊急を要する宿泊にも対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	障害者グループの配本サービスや市内へのイベントに参加し暮らしを楽しんでいる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の意向に沿って医療を受けかかりつけ医とも連絡をとっている	大半がかかりつけ医を継続し、受診は職員が付き添っています。結果は受診連絡帳に記録され、情報の共有が図られています。本年は新たに医療面の申し送りノートを作成し職員の意識づけに役立っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護師を採用し日常の健康管理をしている。スタッフに周知出来る記録している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	この1年入退院はなかった。また地域連携室等へも時々出かけ情報を受けやすくしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアも実施している。体力レベルが低下した時点から本人の考えなど伝えながらターミナル計画を作成している。	契約時に意向の確認をしていますが、重度化した場合は随時話し合いをもって臨んでいます。本年度も一名の看取りがありました。かかりつけ医や看護師との連携が密に図られ、家族も泊まり込むなど、安心して納得した最期を迎えられる取り組みがあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急訓練を年6回実施、初期対応に努めている。管理者は救急法協議会に参加し、救急対応の習得に努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難・救急訓練を独自に行っている。防災支援ネットワークに加入し、地域企業の協力体制ができています。	近隣や行政、消防署員、加入している災害支援ネットからの協力体制は潤沢です。地震、風水害等様々な場面を想定した訓練が繰り返され、利用者自身の避難体制も整ってきて、訓練の成果を管理者は感じています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保はスタッフ全員が常時念頭に置き対応している	個人情報の保護への理解を深め、センター方式を活用して個々の利用者を把握しその人に合った声かけに努めています。入浴や排泄支援の際は大きな声で声かけをしない配慮がみられました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の利用者担当をつけて希望を聞いたり、自己決定出来るよう支援している。認知症故、言葉で表現できないので思いもくみ取るよう努力している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	センター方式で記載しながら一人一人を理解し対応するようにしている。 利用者によっては遅くまで起きていて朝食を遅く食べるなど、今までの自宅での習慣に合わせている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝はどんな洋服が着たいか聞きながら、清潔感のある服装を心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備から味見・配膳・片付け等無理なく参加している	近所から届く季節の食材を有効利用しつつ、必要な栄養を考慮に入れてメニューを検討しています。栄養士による食生活推進協議会に出席して、献立表の見直しにも取り組んでいます。職員と利用者で買い出しにも出かけ、調理の中で皮むきや米とぎ等、場面毎に得意な人の出番が用意されていま	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食生活推進協議会に所属し老人食などの実習をしたり知識を得ている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアやおやつ後のくちすずぎなど実施		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全員トイレで行っている。おむつから布パンツに変更し、4人が布パンツでいる	排泄パターンを把握することで、布パンツへの移行が成功した例もあります。適切な排泄支援で寝たきりの人が立てるようになったり、何よりも本人が気持ちいいと感じ、豊かな表情につながっていることを実感しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘しないよう毎日食事で繊維質の多い材料を吟味したり、沢山食べられる工夫をしている。排便表を付けて便秘していないか注意している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回～3回の他、希望で入浴している。	重度化して浴槽に入ることが困難な利用者でも、職員2名による入浴支援があり、ゆっくり浴槽に浸かる喜びを感じてもらえます。職員意見から夏季は全員が週3回以上入れるよう工夫して取り組みました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日光浴や買い物などにでかけ安眠できるようにしている。また、就寝や起床の時間も自由にして、良く眠れる時間帯で睡眠をとっている。添い寝やスキンシップで安心を感じていただいている人もいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	概要を理解しているが、全員全薬を理解していない。その都度スタッフ間で教えあって理解を広げている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誰もが無理なく役割を持って毎日遂行できるよう促し、遂行できたときは感謝の言葉をかけ、喜びを感じていただいている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やイベント、散歩・コンサートなど希望を聞いて気楽にでかけている。図書館にも良く行っている。退職したスタッフが食事などに誘ってくれている。	散歩や外出は歩行ができる人に偏りがちですが、車椅子でも同じように出かける機会を確保するよう努めています。近隣には桜の名所や子ども達が集まる公園もあり、少しの時間でも出かけられるよう工夫しています。お弁当持参で公園に出かける機会もあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に同伴して支払えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも代行してかけている。手紙は代筆している 日記をつけるよう、支援している人もいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの花を活けている。食事は利用者と職員の協働作業で作っているので食事の香りや皿の茶碗の音も適度に有り、生活感や季節感有り	テーブルには庭先の花が活けられ、壁には懐かしい数え歌や習字、ボランティアによる季節感あふれる壁画作品等が掲示されており、利用者が話材とする仕掛けがたくさんあります。大豆選別や洗濯物たたみ等、テレビ任せのケアに頼らない活動的な暮らしがあり、居心地の良い場所となっていることを視認しました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室に自由に出入りしたり、気の合う利用者同士で各々に部屋を往来したり、思い思いに過ごせる工夫をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を飾ったり、思い出深いものを飾ったりしている	自宅から持ち込まれたベッドからは、馴染みやすく安眠できる雰囲気を感じられます。本人の希望により畳と布団を続ける人もいます。それぞれの使い慣れた趣味の道具が置かれ、安らぎを得る工夫が行われています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	流し台や配膳台は低めにして食事の支度に参加し易くしている、物干し台も風雨があたりなくて干しやすい位置にしたり高さを調整している		